

資料

リスク
アセスメント

第2回 リスクアセスメント 手順1

さて、今回からはリスクアセスメントの ISO/IEC Guide 51:1999 に準拠した具体的手順について説明していきますが、ちょっとその前に、簡単な用語の定義をしておきましょう。

◇安全◇

安全とは、人とその共同体への損傷、ならびに人、組織、公共の所有物に損害がないと客観的に判断されることである。ここでいう所有物には無形のものも含む。

◇衛生◇

衛生とは「健康の保全・増進を計り、疾病の予防・治癒を計る」ことで、「健康」の概念も入る。また、「健康」とは「無病で丈夫なこと」を言う。

異議や疑問を持たれる方もおられるでしょうが、規格解釈上の定義としてお許しください。それでは、手順の説明をしていきます。

◇ 必要情報の収集 ◇

まず、どのようなリスクが存在するかを洗い出す必要があります。『どのようにして?』といった声が聞こえそうなので、参照規格からどのような情報を集めれば良いか見てみましょう

◇ OHSAS 18002

- 労働安全衛生法規及びその他の要求事項
- 労働安全衛生方針
- 事故誘因及び事故の記録
- 不適合
- 労働安全衛生マネジメントシステム監査結果
- 労働者(従業員)や他の利害関係者からの情報
- 職場内の労働者(従業員)の労働安全衛生協議、見直し及び改善活動からの情報
- 組織(事業場)に関する最適慣行、典型的な危険源、類似の組織(事業場)で発生した事故誘因及び事故に関する情報
- 組織(事業場)の設備、プロセス及び活動情報
 - ・ 管理手順の変更の詳細
 - ・ 配置計画
 - ・ 工程フローチャート
 - ・ 危険(有害)物質の一覧表
 - ・ 毒物(特定化学物質)やその他労働安全衛生データ
 - ・ モニタリングデータ
 - ・ 職場環境データ

となっていますが、検査室では概ねアンダーラインを付けた情報を収集するとよいでしょう。

また、医療機器を中心に情報収集を行うのであれば、

◇ JIS B 9702

- 使用する機器・設備類に関する仕様、性能、取扱説明書等の資料
- 実施する作業の手順書等の有無と内容
- 関係法令、規制、規格、社内標準
- 使用する動力の供給に関する情報

- 労働災害、ヒヤリ・ハット・気がかり提案事例、設備故障等の履歴
- 作業環境測定結果、健康診断結果等の健康障害についての情報
- 類似の機械・設備・作業の実施済みリスクアセスメント結果

となります。検査室では概ねアンダーラインを付けた情報を収集するとよいでしょう。初めてリスクアセスメントを行う場合、二つの規格を比較すると後者の方が検査室としては理解しやすいのではないのでしょうか。

情報収集で注意する点は、細かいことに気を取られ、大きな問題を見落とすことです。初めから完全に網羅することはほぼ不可能なので、大きなものからピックアップしていきましょう。

◇ 手順1 ◇

使用及び合理的に予見可能な誤使用の明確化

まず、人の行動について考えてみましょう。

- 事故や故障が生じた際の反射的な挙動
 - 集中力の欠如又は不注意から生じる正しくない挙動
 - 作業遂行中、“最小抵抗経路(省略行動、近道反応等)”をとった結果生じる挙動
 - あらゆる状況において機械の運転を継続させようとするインセンティブが働いた挙動
 - こども又は障害者のような特定の人にとる挙動
- このような不安全行動を「合理的に予見可能な誤使用」とします。

また、機械類による災害は、機械の作業領域と人の作業領域が重なり合う危険領域において発生するとされています。したがって、機械類がどのような性能をもち、どのように作業者に使用又は誤使用されるかを明確にしておく必要があるのです。JIS Q 2001:リスクマネジメントシステム構築のための指針では、以下のようになっている。

次ページへ...